

令和6年度

第3回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和6年5月10日(金)
開会15時05分 閉会15時55分

場 所 教育委員室

令和6年度
第3回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

令和6年度第1回グローバルリーダー育成塾(第9期生)開講について

令和6年3月卒 高等学校新規卒業者の就職状況について

令和7年度県立学校入学者選抜の日程等について

令和7年度県立特別支援学校高等部・専攻科及び高等特別支援学校入学者
選考の日程について

令和7年度教員採用選考試験の出願状況について

【内 容】

1 出席者

| | | |
|------------|---------------------|-----------|
| 委 員 | 教育長 | 山 田 雅 文 |
| | 委 員（教育長職務代理者） | 岩 崎 哲 朗 |
| | 委 員 | 高 橋 幹 雄 |
| | 委 員 | 鈴 木 恵 代 |
| | 委 員 | 岩 武 茂 代 |
| | 委 員 | 岡 田 豊 弘 |
| 事務局 | 教育次長 | 大 和 孝 司 |
| | 教育次長 | 山 田 誠 司 |
| | 教育次長 | 武 野 太 平 |
| | 教育改革・企画課長 | 鈴 木 耕 平 |
| | 教育人事課長 | 吉 雄 幸 平 |
| | 高校教育課長 | 小 野 和 正 |
| | 高校教育課 参事 | 佐 野 博 紀 |
| | 特別支援教育課 主幹（総括）兼指導主事 | 阿 部 泰 弘 |
| | 教育改革・企画課 総務企画監 | 角 淵 達 彦 |
| | 教育改革・企画課 課長補佐（総括） | 新 貝 隆 |
| | 教育改革・企画課 主査 | 久 知 良 周 平 |
| | 教育改革・企画課 主査 | 穴 見 ひ と み |

2 傍聴人

3 名

開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和6年度第3回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、鈴木委員にお願いします。

会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は15時55分を予定していますので、よろしくをお願いします。

議 事

【報 告】

[令和6年度第1回グローバルリーダー育成塾\(第9期生\)開講について](#)

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

それでは、報告第1号「令和6年度第1回グローバルリーダー育成塾(第9期生)開講について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

令和6年度第1回グローバルリーダー育成塾の開講について報告いたします。
まず1ページの概要です。この事業は平成28年にスタートしました。今年度は第9期となります。県内高校1・2年生を対象に、年4回実施します。今年度は、5月25日(土)に開講します。参加者については、県内29校から890名が参加予定です。

内容については、午前は一般社団法人エシカル協会代表理事の末吉里花様から「エシカルは新しい幸せのものさし」というテーマで基調講演が行われます。また午後は、参加生徒が「自分たちの手で実現したい未来の構想」についてグループ内で協議し、発表し合います。

あわせて、昨年10月から実施していましたスタンフォード大学との連携によるスタンフォード大学遠隔講座第5期生と立命館アジア太平洋大学との連携によるオンライン・グローバル・キャンパス第4期生のそれぞれの閉講式を行います。閉講式では、スタンフォード大学遠隔講座の成績優秀者に選出された2名が、社会課題の解決策について、英語によるプレゼンテーションを行います。また、オンライン・グローバル・キャンパスの成績優秀者代表1名が、講義や留学生を交えたディスカッションでの学びについて成果を発表します。

スタンフォード大学遠隔講座の成績優秀者については、スタンフォード大学で検討していただき、昨晚、優秀者2名が発表されましたので、この場をお借りして発表いたします。成績優秀者の1名は高田高等学校3年生の徳本麟太郎さんで、開講時は2年生です。もう1名は大分豊府高等学校2年生の川嶋千瑚さんで、開講時は1年生です。この2名については、今後成績優秀者2名として、8月現地での表彰式に招待される予定です。

グローバルリーダー育成塾の開講にあたりまして「他校の生徒と対面で交流する体験から、生徒の成長に期待している」という学校の先生方からの声もあり、生徒が学校の枠を越えて意見を交わすことができる環境を提供するため、全員参加型としています。メイン会場を設置し、そこに加えて会場を分散し、オンラインでつなぐ形で、午後の時間帯も全員がそこで協議をします。

今後もこうした取組を通じて、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働して未来を切り拓いていくことができるグローバル人材の育成に努めてまいります。なお、2枚目は、スタンフォード大学遠隔講座及びオンライン・グローバル・キャンパスについての補足資料です。以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩武委員)

平成28年からスタートしていますが、多くの受講した生徒が大学生になり、卒業している生徒もいると思います。育成塾の成果が高校卒業後、また社会に出てから何かこういう形で役に立ったということ把握されていることがありますか。

(佐野参事[高校教育課])

平成28年、29年に卒業した、または海外の大学に在籍している生徒の中に、大分舞鶴高校の生徒で、留学フェローズという会社のようなものを立ち上げている方がいます。留学フェアで、大分県の高校生たちに「今海外で自分たちはこう

いう生活をしている」とか「困っていたら相談して」と、海外からオンラインで説明してくれました。平成28年頃の参加生徒数は100人程度ですので、令和元年からの生徒たちの状況を追っていきたいと思います。確かに外資系の企業に勤めている方もいらっしゃるので、出来る範囲ですが、調査しようと思います。

(岩武委員)

わかりました。

(山田教育長)

他にご質問があればお願いします。

(高橋委員)

2名の成績優秀者がスタンフォード大学に招待されるということですが、大学の方から招待されて、現地で何か発表されるのでしょうか。

(佐野参事 [高校教育課])

今回の成績優秀者の生徒たちは、スタンフォード大学に自分たちの研究のテーマについてプレゼンテーションをしています。そのプレゼンテーションも評価の対象になっており、その選ばれたプレゼンテーションも現地で発表します。

昨年は、福岡県と神戸市と合同で表彰式が行われ、他県の生徒の発表も英語で行われました。実際その場で、スタンフォードの先生から質問されたりしましたが、その質問にもしっかりと英語で答えられるようになっていました。

(高橋委員)

一問一答で答えるのですか。

(佐野参事 [高校教育課])

はい。私たちも驚きました。講座が3月に終わっていますが、8月までの5ヶ月間で本人たちも個人でかなり勉強しており、自分たちも大丈夫かなと思っていたのですが、答えられていました。スタンフォードの先生たちも絶賛していました。「大分の生徒はいいですね」と評価してもらえ、とても誇らしかったです。

(高橋委員)

日常会話は普通に出来るということですね。

(佐野参事 [高校教育課])

はい。私たちも一緒に行くのですが、生徒たちが英語を使う機会を持てるよう、遠くから見守っていたところ、生徒たちはどこに行っても、普通に英語で話しています。

(高橋委員)

テーマになっているのは、SDGs とシリコンバレーと起業家精神ですが、こういうテーマであれば、専門的な用語も出てくるとと思いますが、そういったものにも全て対応しているということですか。

(佐野参事 [高校教育課])

はい。講義の中で事前課題がありまして、その事前課題がオンラインで送られてきて、その用語についてはまず自分で勉強した上で講義を受けます。

その後、事後課題があります。講義が終わった後でも、生徒が自ら学べるシステムをスタンフォードは持っていますので、語学面ではかなりの資格を取って、高校生を終えています。

(高橋委員)

わかりました。引き続きよろしく申し上げます。

(山田教育長)

本日の新聞で、中学生と高校生の英語力について、文部科学省の発表が掲載されていました。残念ながら大分県は全国平均を下回っているということで、大きな課題だととらえています。

スタンフォードやAPUもそうですが、なるべくネイティブの外国人の方とコミュニケーションをする中で「自分も語学が出来ればコミュニケーションできるのに」というもどかしい気持ちを早い時期から体験することが大事ではないかと考えています。

今後、県総合長期計画の中でも、目標指標として設定しようかと考えていますが、ニーズを実感することで「英語を勉強しよう」という気持ちになると思いますが、なるべくそういった体験を子どもの頃からできるようになればと思っています。

令和6年3月卒 高等学校新規卒業者の就職状況について

(2 課 [教育改革・企画課、高校教育課] 入室)

(山田教育長)

次に、報告第2号「令和6年3月卒 高等学校新規卒業者の就職状況について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「令和6年3月高等学校新規卒業者の就職状況について」ご報告いたします。資料をご覧ください。これは紹介就職のみを対象とした大分労働局のデータを元にまとめた資料になります。

1は、紹介就職の内定者数、未内定者数、内定率の年次毎の推移を示したものです。高校卒業者数の減少に伴い、就職希望者数、就職者数とも減少傾向の中、令和6年3月末の就職内定率は99.6%と昨年度より0.2ポイント減少はしていますが、高水準を維持しています。

これは、令和6年3月末の求人倍率が2.60倍であったという状況の中で、企業サイドの採用意欲の高まりと、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細やかな指導等、学校での熱心な就業支援との相乗効果の成果であると考えています。

一方で、令和6年3月末の就職未内定者数が8名となっています。未内定者については、卒業後も各学校の卒業生相談窓口等が中心となり、生徒の希望進路達成に向け、ハローワークや関係機関と連携し、引き続き就職支援を行っています。

2の県内就職状況です。大分県では人口減少が喫緊の課題であり、地方創生を担う人材の育成が最重要課題の一つとして位置づけられています。就職内定者のうち県内で内定した者の割合は73.9%で、昨年度同期と比べ1.8ポイント減となりましたが、それでも九州では福岡県に次いで2番目であり、依然、高水準を維持しています。これは、コロナ禍での地元志向が続いていることに加え、商工観光労働部との連携による県内企業説明会等の取り組みや、工業科に配置したキャリアプロデューサーの成果によるものだと考えられます。

教育委員会の取組として資料下に記した から を実施し、生徒の就職支援を引続き行っています。このうち と は当課と大分労働局、商工観光労働部との連携で取り組んでいるものです。また、就職状況を把握するためにも、今年度9月から学校訪問を実施する予定です。

本年度も学校訪問等を継続的に行いながら、各学校が生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、きめ細やかな進路指導を行えるように支援していきます。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

離職率は今の時期でどの程度あるかということ調べていただければと思います。先日、商工会議所の中で、1ヶ月で辞めてしまう子どもが多いこと、転職アプリを職場で見ている子どもがいる状況もあること等、今の就職活動は以前と随分変わってきた、という話をしました。できるところまでで良いので追跡調査のようなことができたならお願いしたいと思います。

また、TSMC(台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング・カンパニー)が熊本に進出してきたことにより、こういった変化があるか、データ等で示していただくようお願いします。

(小野高校教育課長)

離職率については、大分県出身者だけの離職率を県を超えて調査することはなかなか難しい状況です。半導体企業については、県外への流出にはほとんど影響

なく、むしろ県内の半導体企業を希望して就職した生徒がかなり増えています。工業系高校10校のうち、半導体関係に就職した生徒は、昨年度57名から、今年度は70名に増えています。求人そのものに変化はありませんが、希望自体が増えている状況があります。今後も追跡調査を行いたいと思います。

(岡田委員)

どういった業種で人気がありますか。

(小野高校教育課長)

建設業・製造業は依然として高く、飲食業や宿泊業についても増加傾向にあります。コロナが5類となったことや社会的な変化も影響していると考えられます。

(鈴木委員)

ある校長先生に「卒業生は卒業後相談に来られますか」と聞いたところ、来たことがないとの回答でした。卒業後、なかなか高校に頼むということが難しい状況があるようです。様々な職業の選択肢が可能な状況もあり、高校卒業時点での確な判断をするということも難しいと思います。思った仕事内容と違うとか、求人票の内容と違うということは多くあるのではないかと思います。そういった中で転職を選ぶということもあると思います。

実際に働いてみて初めてわかることもたくさんあると思いますので、教職員、県職員も含めてですが、様々な業種について、先輩の具体的な仕事の話聞く機会があると良いのではないかと思います。

(小野高校教育課長)

卒業後、一番頼りやすいのは担任で、そういった先生がいらっしゃれば一番いいのですが、そうでない場合もありますので、卒業生の相談窓口を各学校に設置し、周知しています。昨年度も、各月に数名の訪問があったと報告もあります。さらに周知して、職場での悩みや転職、退職について相談に応じられる体制を作っていきたいと思います。

また、卒業前に巣立ち教育として、労働条件やワークライフバランスなどについては学ぶ機会を設けていますが、卒業生の話聞く機会を設けるという点は参考にさせていただきたいと思います。

(岩武委員)

今の世の中を考えると生涯ひとつの職業を貫き通すということは段々少なくなってきています。離職率を下げるのではなく、転職も当然あるということを前提にしたキャリア教育を考えた方が良いのではないかと思います。自分の生き方を考えるとき、転職をするときにどのようにしたらいいのかというキャリア教育が必要になってくると思います。

(小野高校教育課長)

転職、キャリアアップも含めたキャリア教育も考えていきたいと思います。

(高橋委員)

企業の側としては、早期離職の生徒が出た学校からは、その後採用しづらくなります。入社前の企業調べなどがもっと必要になっていくのではないかと思います。企業との連携をお願いします。

(鈴木委員)

受かるための指導だけでなく、正しい辞め方もしっかり教えておく必要もあるのではないかと思います。

(岩崎委員)

法定的な知識等を実につける機会を設けることも必要だと思います。また、早期離職の多い企業や問題のある企業についての情報はある程度把握しておく必要があると思いますので、卒業生から情報を集める等の体制づくりをしていただければと思います。

(小野高校教育課長)

高校生がワークルールを学ぶ場や、教員が企業の採用担当者と情報交換する場もありますので、いただいたご意見も含めて、生徒への指導、支援方法を考えていきたいと思います。ありがとうございました。

令和7年度県立学校入学者選抜の日程等について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第3号「令和7年度県立学校入学者選抜の日程等について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「令和7年度大分県立学校入学者選抜等の日程等について」報告いたします。4ページの資料をご覧ください。

まず県立高校についてですが、全日制、定時制ともに、太字で記載してありますように、推薦入学者選抜、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜及び帰国・外国人生徒特別入学者選抜の検査日を2月4日(火)・5日(水)、第一次入学者選抜の検査日を3月11日(火)・12日(水)、第二次入学者選抜の検査日を3月19日(水)として出願期間などを定めています。

続きまして、5ページをご覧ください。大分県立大分豊府中学校の入学者選抜

は、例年大学入学共通テストの1週前に実施をしています。したがって、令和7年度入学者選抜の検査日は1月11日(土)としました。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見なし)

令和7年度県立特別支援学校高等部・専攻科及び高等特別支援学校入学者選考の日程について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第4号「令和7年度県立特別支援学校高等部・専攻科及び高等特別支援学校入学者選考の日程について」特別支援教育課から説明をしてください。

(阿部主幹兼指導主事〔特別支援教育課〕)

「令和7年度県立特別支援学校高等部・専攻科及び高等特別支援学校の入学者選考日程」について、説明いたします。

資料の6ページをご覧ください。この表は、高等特別支援学校以外の大分県立特別支援学校高等部・専攻科の令和7年度入学者選考に係る日程を示したものです。高等特別支援学校以外の大分県立特別支援学校高等部・専攻科の入学者選考は、県立高等学校の第一次入学者選抜及び第二次入学者選抜と同じ日程で行っています。

したがって、令和7年度についても、県立高等学校の入学者選抜と同じ日程ですすめるように計画しました。主な日程ですが、第一次選考日は令和7年3月11日(火)、合格発表日は3月13日(木)、第二次選考日は令和7年3月19日(水)、合格発表日が3月21日(金)です。

次に資料の7ページをご覧ください。この表は、令和7年度県立高等特別支援学校の入学者選考に係る日程を示したものです。第一次選考日については県立高等学校、私立高等学校、他の県立特別支援学校高等部等との併願を考慮し、これらの学校の入学者選考に先行して令和6年12月10日(火)に実施、合格発表日は12月16日(月)です。第二次選考日は令和7年2月4日(火)、合格発表は2月6日(木)です。

以上で説明を終わります。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(山田教育長)

特別支援学校高等部と高等特別支援学校の選考日が大きく違っているのはなぜですか。

(阿部主幹兼指導主事〔特別支援教育課〕)

高等特別支援学校が選抜試験となっています。高等特別支援学校の選抜試験不合格となってしまったときに、特別支援学校高等部を受検できるように考慮しています。

(武野次長)

さくらの杜高等支援学校は、一般就労を特にめざすということで、選抜試験を行っています。もしそこで不合格になっても、特別支援学校の高等部に入学できる形をとっています。

令和7年度教員採用選考試験の出願状況について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(山田教育長)

次に、報告第5号「令和7年度教員採用選考試験の出願状況について」教育人事課長から説明をしてください。

(吉雄教育人事課長)

大分県公立学校教員採用選考試験の出願状況について、説明いたします。資料1ページの2の「出願状況について」ですが、併せて上の1の「出願者数等」の表をご覧ください。

(1)の第1志望と第2志望とを合わせました「延べ出願者数」は、前年度に比べ全体で254人減の1,120人となりました。

(2)の実出願者数である「第1志望」の出願者数は、前年度に比べ全体で187人減の991人となり、(3)にありますように、養護教諭以外は出願倍率が低下しています。また、(4)の特別選考の出願者数も前年に比べ12人減となりました。

(5)は、1の表に記載していませんが、第1次試験における大阪会場での受験希望者は79人となり、こちらも前年に比べ50人減となっています。

(6)です。新卒の出願者数は、前年度に比べ81人減の406人、(7)から(10)につきましては、各特別選考出願者の内訳を記載しています。

資料3「出願状況のまとめ」ですが、出願者減少の理由については、まずは大量退職期に備えた採用数の拡大によるものと思われる既卒出願者の減少が本年度も見られたこと、先ほど大阪会場受験者が減少したと報告しましたが本年度関西圏5府県の第1次試験の日程が本県の前日の6月15日になったことが影響した

のではと考えています。本年度、文部科学省からの要請も踏まえまして例年より前倒ししたところですが、早期化の効果も検証し、出願者数の増加につながる方策について今後とも検討してまいります。

4の今後の日程については、第1次試験が6月16日、第2次試験が8月3日～10日の間の指定する日となっています。最終の結果発表は、8月30日を予定しています。

なお、次のページに各教科・科目等別の出願状況についてまとめています。以上、令和7年度大分県公立学校教員採用選考試験の出願状況について、報告いたします。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(山田教育長)

実に深刻に受け止めなければならない問題であり、教員の働き方、処遇の問題等様々な課題を解決していかなければならないと思っております。

(岩崎委員)

特に小学校教諭出願者の減少を心配しています。何か特別に手を打つことはできないでしょうか。

(吉雄教育人事課長)

県内だけでなく九州各県等の教員養成課程の大学を訪問して、学生への説明を行っています。また、大学の先生とも出願者を増やすための相談や協議を行っています。採用試験の内容の見直しに加えて、広報活動をさらに強化していきたいと考えています。

(岩武委員)

今回、高校の出願者数が減っているように思います。今春、民間企業が新卒者の給与を上げており、その影響もあるだろうと思います。給与について民間企業に追いつかない状況があるのでしょうか。

(吉雄教育人事課長)

現在、国の方で教職調整額、その他も含め議論がされている状況ですので、まずは、国の動向について注視をしていきたいと考えています。

(鈴木委員)

小中連携教諭の出願がどの教科も少ないので、実際に小中一貫校などで勤務している先生の姿や小学校における教科担任制の様子などを伝えるとよいのではないのでしょうか。また、大分市内の先生と周辺地域の先生の働き方の違いなど、様

々な先生の姿を受験者等へ広報するよう努めていただきたいと思います。

(高橋委員)

給与面の処遇改善について、若い方が展望を持てるように国に対して提言してもらえればと思います。

(山田教育長)

全国共通の問題ですので、色々な機会を見て国に要望していくとともに、大分県でできる教員の負担を減らすための方法を考え、取り組んでいきたいと思ます。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和6年度第3回教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。